

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

| | | | |
|---------|---|----|---------------|
| 代表者氏名 | 杉田 明宏 | 所属 | 大東文化大学文学部教育学科 |
| 研究集会等名称 | 公益社団法人日本心理学会 平和心理学研究会主催 日本発達心理学会第25回大会ラウンドテーブル 「平和心理学を創る (3) : 東日本大震災後3年目の平和心理学の課題と実践」 | | |
| 成果概要 | <p>◇会場：京都大学 吉田南総合館 (共北 35 教室) ◇日時：2014年3月21日 (金) 13:00-15:00</p> <p>1) 参加人数 会員 約 10名 非会員 約 10名</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 本ラウンドテーブルの目的は、東日本大震災後3年が過ぎた時点に立って、この問題に対してなされてきた多様な心理学的な実践と研究活動を検証しながら、コンフリクト・暴力・平和といった平和心理学の観点から見た課題を明確化することであった。 ラウンドテーブルでは、杉田明宏氏 (大東文化大学) からの企画趣旨説明に引き続き、伊藤哲司氏 (茨城大学)、井上孝代氏 (明治学院大学)、いとうたけひこ氏 (和光大学) から報告いただいた。 伊藤哲司氏からは、東日本大震災の津波で被災した茨城県東茨城郡大洗町のコミュニティを支援してきた社会的ネットワーク「大洗応援隊！」の取り組みが紹介され、学生を含むメンバーたちと地元の人びとが「あつまる・つながる・まじわる」ことで、いかにして震災以前と質的に異なる新たな「安全・安心」を生みだしうるかが示された。 井上孝代氏からは、東日本大震災の被災者に被災体験を証言してもらい、その様子を映像として記録する『『東北の声』プロジェクト』が紹介され、被災者の語りを発信することで新たなつながりが生まれ、記録からの学びを通してコミュニティが再生していくプロセスが示された。 いとうたけひこ氏からは、東日本大震災で被災した小中高生の作文 (161 編) の分析から、津波被害の子どもたちは被害を過去のものとして受け止めている一方で、原発被害の子どもたちは被害を現在進行形として捉えており、原発被害が Galtung のいう人間の潜在的可能性を如何に外的に損なっているかが明らかにされた。 三本の報告を受けて、指定討論の平沼博将氏 (大阪電気通信大学) からは、平和心理学の観点から、①「震災後3年」をどの局面として捉えるべきか、②震災後にどのようなコンフリクトが生じているのか、③コンフリクトの建設的側面への着目などについてコメントがあった。最後の全体討論では質疑応答と意見交流を行いながら震災後の平和心理学の課題について話し合った。</p> <p><成果> 東日本大震災後の平和心理学の研究と実践が交流され、活発な意見交換が行われたことで、平和心理学の課題とともに大いなる可能性が明確になった。</p> <p><将来計画> 今後とも平和心理学に関する研究活動を活発に行い、研究成果を蓄積するとともに、日本心理学会の会員内外に成果を普及するための公開シンポジウムや研究集会を企画していきたい。</p> | | |

2014年 3月 28日

日本心理学会研究会 2013年度会計報告書

研究会名称 公益社団法人日本心理学会平和心理学研究会

研究会番号 研13032

助成金額 ¥20,000

| 年月日 | 項目 | 金額 |
|------------|--------------------|---------|
| 2014年3月21日 | ラウンドテーブル開催費用 | ¥11,000 |
| 2014年3月21日 | 資料作成費（話題提供者：伊藤哲司氏） | ¥2,000 |
| 2014年3月21日 | 資料作成費（話題提供者：井上孝代氏） | ¥2,000 |
| 2014年3月21日 | 資料作成費（話題提供者：伊藤武彦氏） | ¥2,000 |
| 2014年3月21日 | 資料作成費（指定討論者：平沼博将氏） | ¥2,000 |
| 2014年3月28日 | 郵送費（レターパックプラス×2） | ¥1,000 |
| 支出合計 | | ¥20,000 |